持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点（RCE）と生物多様性

国際連合大学高等研究所

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS
Institute of Advanced Studies

RCEと生物多様性

国連大学イニシアティブ「持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点（RCE）」の世界に広がるネットワークは、共通の関心事に協働で取り組むテーマ別ネットワークを形成しています。各ＲＣＥ内はもとよりＲＣＥ間で具体的なテーマに取り組むことは、包括的な「持続可能な開発のための教育（ESD）」の視点からさまざまな課題に対処する上で有効です。また、特定のテーマ領域で活動している各ＲＣＥ地域内のパートナーをＥＳＤ活動に巻き込み、ＥＳＤの裾野を広げる一助となります。

そうした具体的テーマの一つが生物多様性であり、RCEは生態系とコミュニティ双方の健全性をバランスよく保つのに役立つ教育を推進しています。

生物多様性のためのRCEの活動例を、以下にいくつか紹介しましょう。

写真提供　米農務省　自然資源保全局

北米プレーリーに生息する絶滅危惧種 スイフトギツネ

© シリンドーン国際環境公園（RCE チャアム）

マングローブについて学ぶ生徒たち

© RCEサドベリー広域圏

林床植物の移植による生物多様性保全

© RCE仙台広域圏

水田の生物多様性について学ぶ生徒たち

コミュニティ向けの生物多様性活動計画

カナダのRCEサドベリー広域圏は、コミュニティのメンバーにも数ヵ月にわたって参加してもらいながら、「生物多様性活動計画」（Biodiversity Action Plan）を策定しました。ステークホルダーは、生物多様性ステークホルダー集会や対話集会、電話アンケートを通じて、この計画に対する意見やフィードバックを提供しました。

サドベリー広域圏生物多様性活動計画は、サドベリー土壌調査（Sudbury Soils Study）の生態リスク評価（ERA）によって特定された植物群落や野生生物の生息地が抱えるリスクへの、包括的な対応策となるものです。ERAは、これまでに北米で実施されたこの種の調査の中でも特に広範なもので、ヒ素、カドミウム、コバルト、銅、鉛、ニッケル、セレニウムの七つの懸念化学物質（COC）に関する生態学的リスクを評価しました。この地域ではCOCは自然発生するものの、製錬所の排出物から生じる粒子の沈殿により、長年の間に土壌中の含有量が増加しました。地元の主な鉱業会社であるヴァーレ・インコとエクストラータ・ニッケルの2社は、サドベリー土壌調査のERAが特定したリスクに対し、サドベリー広域圏のコミュニティと協力して対処することを受け入れました。

サドベリー広域圏生物多様性活動計画は、
www.greatersudbury.ca/biodiversity
からダウンロードできます。

カナダ・プレーリー州における絶滅危惧種のためのプロジェクト

2005年に始まった「プレーリーの絶滅危惧種（SAR）に有益な農業慣行（Prairie Species at Risk (SAR) Beneficial Agricultural Practices）」プロジェクトでは、スイフトギツネ、アナホリフクロウ、アメリカダイシャクシギなどプレーリーに生息する10種類の絶滅危惧種について、科学文献の詳細な調査を行ってきました。この地域ESDプロジェクトは、主に自然放牧地と農地に生息する絶滅危惧種を守るような農業慣行に改めるにはどうすればいいかを、農業生産者に指導することを目的としています。

プレーリーSARプロジェクトは、生息地の管理について農家と農業相談員に明快で地域に即したアドバイスを与えるもので、土地の管理者により速やかに有益な農業慣行を採用させる効果があります。

連邦政府とプレーリー3州の政府による共同出資を受け、これら政府の指導下にある本プロジェクトは、RCEサスカチェワンの「プレーリーの自然生態系との関係回復に関するワーキンググループ」（Working Group on Reconnecting to Natural Prairie Ecosystems）に該当します。

仙台広域圏のラムサール登録湿地における保全

日本のRCE仙台広域圏は域内生態系保全のため、協働を進めてきました。大崎市田尻地区にあるラムサール条約の登録湿地「蕪栗沼・周辺水田」は、豊かな生物多様性を支えています。生物多様性を守る取り組みとして、たとえば、水田や湿地での保全に関する知識や理解、スキルを地元市民に身に付けてもらうための社会学習やボランティア活動があります。

大崎市田尻地区は米の生産地として知られ、地区内の湿地のほとんどは20世紀に水田に転換されました。1990年代終わり、渡り鳥へのねぐらの提供と有機農業の実験という二つの目標をかなえるため、大崎市田尻地区（当時は田尻町）で水田の冬期湛水が始まりました。現在、日本に飛来したマガンの約95%がこの地区で羽を休め、この地区は生物多様性を支える米生産地として有名になりました。大崎市で毎年催されるラムサール・フェスティバルは、生徒が生物多様性に関して調べ、知識を得る機会となっています。

タイのチャアムにおける環境教育

マハー・チャクリー・シリントーン王女殿下の発案により、1994年にタイのチャアムにあるシリントーン国際環境公園（SIEP、Sirindhorn International Environmental Park）で栽培が始まったマングローブは、この公園を訪れる年間6万名の入場者にとって自然の教室です。2009年にはWWFタイランドとトヨタ自動車のタイ現地法人トヨタ・モーター・タイランドの協力により、生物多様性に関する教育を目的とするＥＳＤセンターが公園内に開設されました。

このESDセンターは、特に、初等・中等学校の教師や生徒向けの環境教育施設となっています。

RCEチャアムの事務局はSIEP内に設けられています。

© RCEペナン
自家菜園の活性化プロジェクト

© バイオスフィア（RCEモントリオール）

マレーシアのペナンにおける自家菜園の活性化

RCEペナンが行うこのプロジェクトには、ペナン島南西部のバリック・プラウにある二つのマレー人村落が参加しており、収入源としての自家菜園を奨励することを目的としています。

自家菜園は薬草療法に関するこの土地固有の知識を保護する上で一役買っているほか、若者向けに開かれたインフォーマルな教室の役目も果たします。さらに、自家菜園は儀礼的・社会文化的な活動の場としても重要です。

RCEペナンは自家菜園でのハーブ生産と販売をテーマに、コミュニティ教育のためのワークショップを開催してきました。さらに、このプロジェクトはコミュニティの結束を強め、社会的交流を図る場を創出しているほか、農業ツーリズムの目的地としてバリック・プラウの売り込みも図っています。

カナダのモントリオール市における都市生態系の保護

RCEモントリオールの創設パートナーであるモントリオール市は、生物多様性を守るために多岐にわたる方策を進めています。市が目指しているのは、都市生態系の保護、希少植物の保護、海岸線の安定化、侵入種の根絶などです。

以下の2大活動は、RCEモントリオールの組織をあげた取り組みを反映したものです。

- 「持続可能な開発のための計画（2010～2015年）」には、生物多様性、自然環境、緑地の保護状況を改善するという目的があります。

- 2010年4月に開催された「モントリオール生物多様性・環境保護サミット」（Montreal's Biodiversity and Greening Summit）において、モントリオール市と地域環境協議会は生物多様性と環境保護を支持する「モントリオール島コミュニティ宣言」（Declaration of the Island of Montreal Community）を発表しました。調印者は、公園や緑地における生物多様性を保護し、野生生物の生息地を保存するとともに、一般市民の教育と意識向上を図るための有意義な活動に取り組むことに合意しました。

さらに、RCEモントリオールのネットワークに加盟するカナダ環境省のバイオスフィア（体験型環境学習施設）は、家族で野外に出て自然地域や都市景観を探訪することを奨励するため、「バイオキット」シリーズを制作しました。さまざまな双方向型野外活動、わかりやすいアドバイス、生き生きとしたウェブサイトなど、身の回りの生物多様性の状態や多様性の保全のために自分たちができることについて学ぶヒントが詰まっています。

お問い合わせ先

国連大学高等研究所
持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）プログラム
Email: グローバルＲＣＥサービスセンター
rceservicecentre@ias.unu.edu

国際連合大学高等研究所
〒220-8502
横浜市西区みなとみらい1－1－1
パシフィコ横浜
横浜国際協力センター6F

電話：045-221-2300/2301
Fax：045-221-2302
Website: www.ias.unu.edu/efsd

PRINTED WITH SOY INK